

“計る”技術の精度が向上 国内外問わずトップクラスの技術力を誇る

事業内容

“計る”を通じて社会に貢献 老舗産業用巻尺メーカー

1921年(大正10年)創業の度量衡関連製品を扱う老舗専門メーカー。銅製・繊維性巻尺、直径測定用テープ・巻尺の製造販売が売上の8割を占め、残り2割は度量衡関連製品の仕入販売である。特に銅製巻尺である「タンクスケール」の取り扱いが多く、同製品は船舶の燃料タンクなど容器の底から液量を計ることができるため、海運・石油精製関連企業から高い評価を得ている。

さらに、直径測定用テープである「パイメーター」や「ダイヤメーターテープ」を生産できる企業は国内にほとんどなく、高いシェアを誇っている。その他、スポーツ用品メーカーからは巻尺のOEM生産を受託するなど既存得意先からの信頼は厚い。販売に関しては、大阪府内の測定機器関連商社経由での販売が多いものの、海外向けの製品もあり、新規得意先も徐々に増えつつある。

同社では設計から製造・納品まで一貫して行うことができる。さらに、特殊用途の小ロットの受注まで対応し、長年に渡って得意先からの信頼を積み重ねてきた。この点が同社の強みと言えるだろう。

補助事業

レーザー加工機の導入 生産プロセスの強化と製品用途の拡大

直径測定用テープの「ダイヤメーターテープ」は、今まで目盛線や数字等を熟練の職人の手作業により彫刻していた。手彫り工程や腐食工程、マスキング工程など、完成までに3日間程度を要していたが、今回のレーザー加工機の導入によって手彫り工程などを大幅に短縮することが可能となり、1日で製造工程が完結できるようになった。

さらに納期(工程)短縮のみならず、精度も向上させることができる。レーザー加工機導入前は0.1mmの目盛しか対応できなかったが、導入後は0.01mmまで加工できるようになり、大幅に精度が向上。0.01mmの目盛を刻める国内メーカーがなかったため、これまでアメリカメーカーの製品を使っていたユーザーを獲得することが可能となった。

製造工程の短縮によるコストダウンにも期待ができ、材質もアクリル板からガラスまで幅広い材質に対応できるため、高付加価値な新製品の開発が促進されると見込まれる。



成果

納期短縮、精度の向上、コストダウンを実現

レーザー加工機を導入することにより生産工程が劇的に変化し、納期は大幅に短縮。プログラミング工程が増えたことから従業員への要求は厳しくなっているものの、一定の成果を上げている。

精度面では、0.1mmから0.01mmまで正確に計ることができるようになった点がレーザー加工機導入の大きな成果であり、事実上、世界トップクラスの直径測定用テープの製造に成功したこととなる。

その他では、妊婦のウエストを計るテープ制作にレーザー加工機を利用した。また測定用テープに入れることができなかったロゴの印刷も可能となり、今まで受注が得られなかった産業分野からの受注もみられる。

2015年5月からレーザー加工機を使った製品の販売が随時進められているが、現在は既存得意先を中心に案内している段階である。すでに測定機器販売の商社筋からは高評価を得ており、今後の受注増加が期待される。



今後の展開

製品の知名度向上が課題
海外市場で果敢にシェア奪取を狙う

今後の展開としては、国内外問わず製品の精度の高さを訴求し、知名度の向上を図っていく。

海外に関しては、既存の貿易商社を通して販売増加に努めているが、小ロットであるために貿易商社にとって魅力的な商品になりにくいのが現状だ。海外の5%程度のシェアを獲得するだけでも売上への寄与は非常に大きい。海外シェアの拡大は業容拡大に向けて取り組まなければならない課題である。ただ、海外の既存得意先をベースとして地道な営業活動を行っていくこと以外に目立った方策はなく、新たな海外戦略が必要となっている。

一方、国内では、測定機器販売商社に販売を委託するだけでなく、実際に現場に足を運び自社製品に触れ、体感してもらうことにも注力していく。国内では相応のシェアを有するが、買い替え需要の掘り起こしにも努めていく方針だ。さらに2015年10月に開催される大阪勧業展に出展することで知名度の向上に加え、問い合わせの増加につなげていきたいとしている。

レーザー加工機導入で生産工程が飛躍的に改善し、新製品も生まれつつあり、今までにないアイデアで“計る”用途の拡大を狙う。

補助事業で独創性を出した
技術力を強化

総務課 課長（貿易担当） 清水 優
製造課 プロダクトエンジニア 森下 司

現在は引き続き、平成25年度ものづくり補助金の採択を受けた「インクジェット印刷技術活用による鋼製巻尺特殊品の生産プロセス強化と新製品開発」に取り組んでいます。

このプロジェクトを推進して、前回のものづくり補助金で採択され購入したレーザー加工機と併せて、弊社の独創性が発揮される技術力強化となり、今まで以上にユーザー様の希望する特殊な仕様の製品を作り上げる事ができると、いまからワクワクしています。



日本度器 株式会社

代表取締役 藤田 眞弘
泉南市りんくう南浜2-6
TEL：072-480-4101
〈資本金〉10,000千円
〈従業員〉22人
<http://www.nihondoki.co.jp/>

